

とうきょうすくわくプロジェクト活動報告書 ひらお保育園【稲城市】

テーマ 【自然を通じた地域とのつながり】

テーマの設定の経緯：

- ・毎年、野菜、花の栽培を行っている中で、さらに活動を広げていきたい。
- ・地域の人とのつながりの中で、一緒に栽培を行うことでさらに関係づくりをしていきたい。
- ・子どもたちの関心が自分たちだけではなく、普段の生活の中で地域の人とのつながりを意識していけたら良いと感じたため。

探求活動の実践

活動期間：6月30日～8月

活動①：

ひまわりの種を植えよう

環境をデザインする：

準備したもの・環境設定

土、肥料、ホース、じょうろ、ひまわりの種

子どもの様子

活動内容 種を植える

- ・初めに地域の人との対話をするを設ける。そのなかで「ここの保育園にわたしの子ども通ったんだ。」という話があると「へー！」という子どもの声があがる。
- ・地域の方の名前を覚えてもらうと何度も反芻しながら覚えようとしている子もいた。
- ・ひまわりの種を植える際に指を入れる深さ、どうしてその深さではないといけないのか？の話が地域の人からあり、何気なく植えるだけではなく、理由があってそうしていることを知ってうなづく姿があった。
- ・次の月曜日には芽がでてくるという話があると「えっ！？もう芽がでるの？」と驚いて聞いている子がいた。また、水をあげて丁寧に育てることの大事さの話では「みんなのひまわりだからお水をあげたりお世話をするんだよ。」と言われると真剣に聞いている子どもたちの姿があった。



活動内容 ひまわりを育てる

- ・朝と夕方の2回、水あげを年長中心に行う。
- ・「あ、咲いてきた！」と花が咲くと関心を向ける姿がある。
- ・ひまわりが高く伸びていることで「ぼくの背ぐらい伸びるかな」という言葉がある。



振り返りをふまえた気づき

- ・地域の方の丁寧な話をきっかけにひまわりの育ちに関心がでて、自分たちで自ら水やりをしたいという姿がでてきている。
- ・地域の方との会話や実際に保育活動と一緒にやることによって、子どもたちの興味関心が自分だけではなく、地域にも向くきっかけになった。
- ・水やりの際にひまわりを観察する姿があったので次の保育活動として描画をいれていきたい。

活動②： ひまわりの絵を描こう

環境をデザインする：

準備したもの・環境設定

クレヨン、絵の具、画用紙、プランターのひまわり



子どもの様子

- ・ひまわりの絵を描く際、画用紙を予め長くつなげたものを準備した。ひとりの子ははじめ、長い画用紙の一枚に小さく描いていた。もうひとりの子は長い画用紙をめいっぱい使って長い茎を描き始めた。長い茎を見て小さく描いていた子は裏にして、同じように長く茎を描き始める。二人を見て、途中で加わった子は長い茎を描き、画用紙を長く使う姿だった。
- ・できあがるとプランターのひまわりの横に立ち、絵と花と自分と背比べをしていた。
- ・描き終わってもひまわりの話は続き、ひとりの子が「花が咲いたらひまわり、もうおしまい？」と聞く。そこで保育者が、種が出来ること、種を植えたら花がまた咲くことその時、年長児のその子は小学1年生になり、新しい年長さんが種を植えることを伝えた。すると「じゃあ、あさがおみたいにたねを取ろう。」と話し、種ができることへの期待に変わっていった。



振り返りをふまえた気づき

- ・ひまわりという花の育ちを丁寧に観察し、自分の背と比べてどうなのか？という気づきにつながった。
- ・絵を描くときに縦に長い画用紙に、自然と茎を長く描き、また子どもの持つ集中力とエネルギーに驚かされた。
- ・丁寧に育てたことで、観察をじっくりでき、ひまわりは自分と同じくらいの背になること、絵を描くことにより、実際にそれを実感できたことがよかった。
- ・咲いて終わりではなく、次はどうなるのか？という探求にもつながった。